



NIRECO



決算説明会資料

(2012年3月期第2四半期)

株式会社ニレコ

～目次～

2012年(平成24年)3月期第2四半期

決算の概要	P. 3～7
2012年3月期の見通し	P. 7～9
セグメント別の実績と見通し	P. 9～12
海外とグループの状況	P. 13～14
中長期的ビジョン	P. 14～15
株主還元策	P. 16

補足資料

今期業績と見通しの補足	P. 17～18
セグメント別の実績と見通しの補足	P. 18～24
中長期ビジョンの補足	P. 24～30
会社概要	P. 30～33

2012年3月期第2四半期 決算の概要

2012年3月期第2四半期

～決算の概要～

- 受注高は前年同期比5.7%増、売上高は同3.5%増
- 期首時点と環境が大きく変わった中で半期売上目標達成
- 営業利益の予想は0だったが、133百万円となり営業利益率は3.8%で前年同期より0.3ポイント・アップ
- 保有する株式の評価損と韓国代理店の貸倒引当金繰り入れによる特損計上があったが、四半期純利益は44百万円となった。

- 11月11日付で、業績予想を修正した。ウェブ事業の好調や、プロセス事業でのサービスの売上が伸びたこと等で、期首での予想の売上高を上回り、増収により営業利益を押し上げた。(今回の業績予想の修正は今期中に限ってのことであり、次期以降については、現時点では慎重に状況を見守っている。)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
修正値	7,100	310	380	210
当初予想値	6,800	150	210	110

■期首に予想した時点での前提についての変化

●期首に予想した前提

1. 各主要事業の環境が移行期に入り、競争が激化するであろう
2. 東日本大震災後の経済環境混乱による間接的影響が出るであろう

●変化

- ① 今期の前半は震災の影響で受注も厳しくなるが、後半には復興需要があると思っていたが、リーマンショック後の復活の勢いがそのまま受注につながった。
- ② サプライチェーンの寸断により生産が間に合わず納期遅延が生じたが、8月にはサプライチェーンは復活し通常状態に戻った。また、在庫量を増やした。
- ③ プロセス事業においては被災した設備の更新需要が発生した。
- ④ プロセス事業の市場は国内から韓国、中国、東南アジアへ移り、今はインドで低価格な欧州の競合と厳しい価格競争を続けている。
- ⑤ ウェブ事業は国内、東南アジアでの受注は堅調であったが、海外のみならず国内においても欧州の競合が低価格で参入してきた。
- ⑥ 検査機事業は第1四半期まで農業向けの検査装置は好調に推移したが、7月以降は震災の影響で政府予算がつかず受注までの道のりが長くなっている。期待のリチウムイオン2次電池検査装置は相変わらず引き合いから受注までの道のりが長い。

損益計算書の概要

(単位：百万円)

	当第2四半期 (11/9)		前第2四半期 (10/9)		増 減	
	金額	比率	金額	比率	金額	伸率
売上高	3,478	100.0%	3,361	100.0%	117	3.5%
売上総利益	1,171	33.7%	1,111	33.1%	60	5.4%
販売費及び一般管理費	1,037	29.8%	994	29.6%	42	4.3%
営業利益	133	3.8%	116	3.5%	17	14.9%
経常利益	163	4.7%	154	4.6%	8	5.8%
当期純利益	44	1.3%	71	2.1%	△27	—
設備投資額	25	0.7%	28	0.8%	△3	△10.7%
減価償却費	68	2.0%	71	2.1%	△3	△4.2%
研究開発費	316	9.1%	300	8.9%	16	5.3%
一株当り利益	6円4銭		9円82銭			

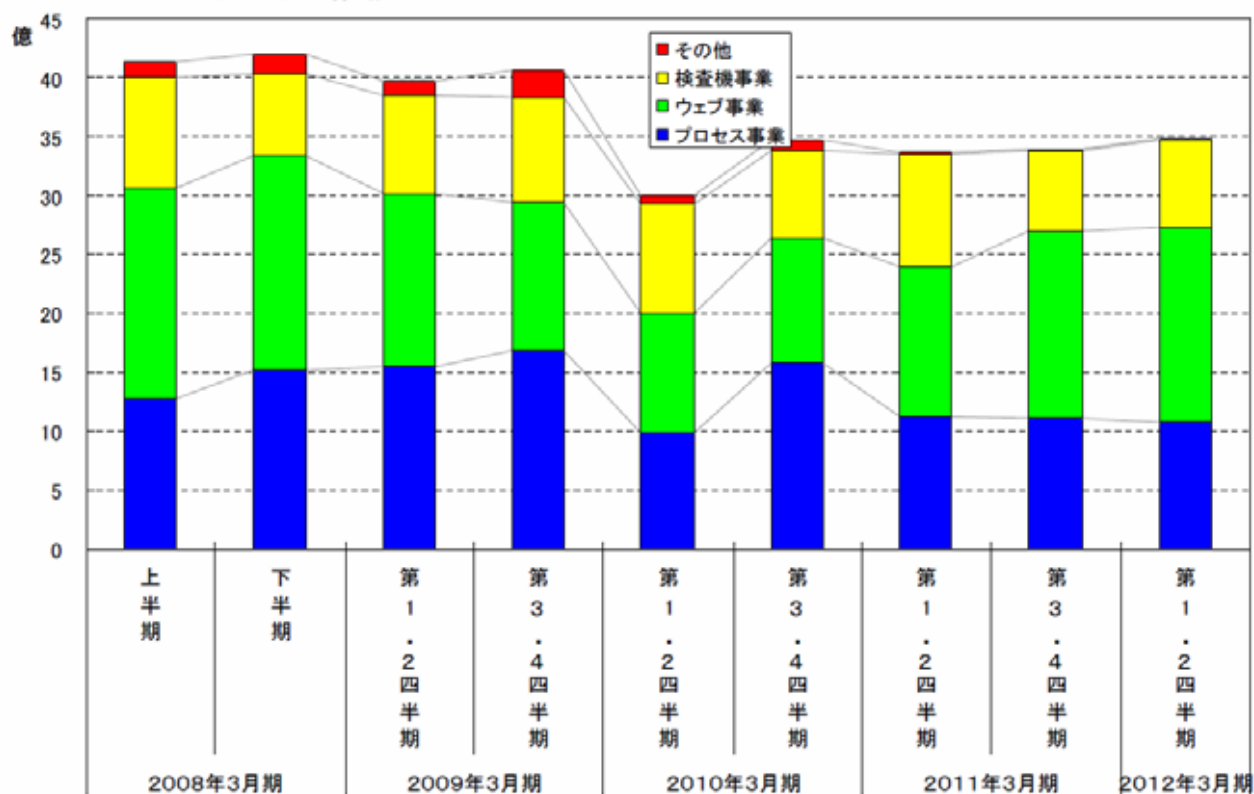
セグメント別受注及び売上の状況

(単位：百万円)

	受注高		売上高		受注残高	
	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率
プロセス事業	1,340	7.4%	1,079	△4.3%	1,466	38.9%
ウェブ事業	1,576	2.1%	1,656	9.9%	619	57.5%
検査機事業	761	12.5%	727	2.6%	576	△1.9%
その他	13	△39.6%	15	△10.2%	2	△66.5%
合計	3,691	5.7%	3,478	3.5%	2,665	30.4%

2011年3月期より印刷品質検査装置を検査機事業からウェブ事業に移管しています。伸び率は、これを加味した前期比較をしています。

セグメント別の売上推移



2011年3月期より印刷品質検査装置を検査機事業からウェブ事業に移管しています。

貸借対照表の概要

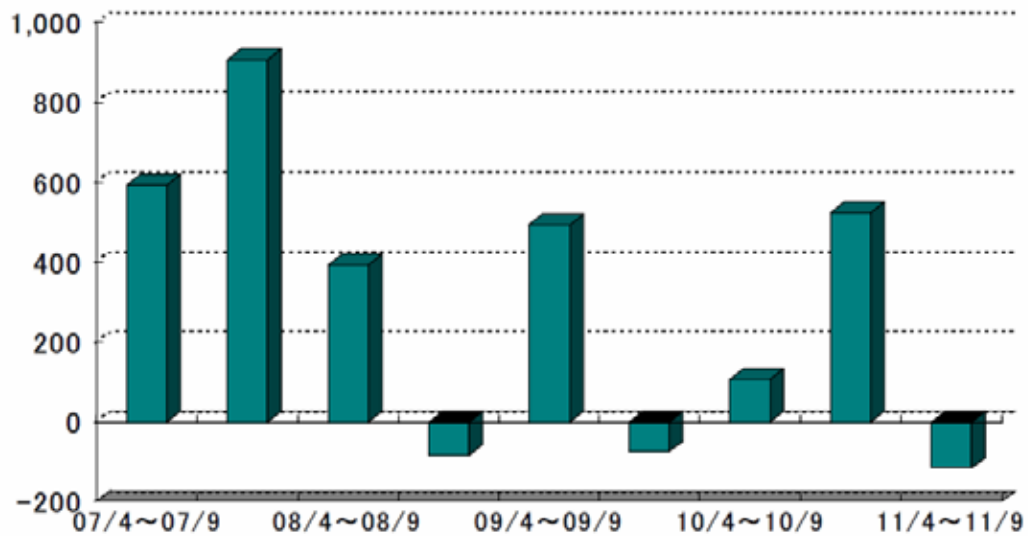
(単位: 百万円)

	当12/3第2四半期末		11/3期末		増減 (1)-(2)	備考
	金額(1)	構成比	金額(2)	構成比		
現金預金	3,271	28.3%	3,419	30.2%	△148	
売上債権	2,534	21.9%	2,584	22.8%	△50	多額だった3月末の売上債権の回収による
有価証券	142	1.2%	163	1.4%	△21	
棚卸資産	2,322	20.1%	1,971	17.4%	351	受注残の増加による仕掛品の増加とウェブ事業の
その他流動資産	461	4.0%	312	2.8%	149	好調による短納期対応で製品の増加
流動資産計	8,733	75.6%	8,451	74.6%	282	
有形固定資産	1,299	11.2%	1,318	11.6%	△19	
無形固定資産	67	0.6%	81	0.7%	△14	
投資その他の資産	1,457	12.6%	1,475	13.0%	△18	
固定資産計	2,824	24.4%	2,875	25.4%	△51	
資産合計	11,558	100.0%	11,326	100.0%	232	
買入債務	482	4.2%	359	3.2%	123	
その他流動負債	785	6.8%	643	5.7%	142	
流動負債計	1,267	11.0%	1,002	8.8%	265	
固定負債計	115	1.0%	130	1.1%	△15	
負債合計	1,382	12.0%	1,132	10.0%	250	
純資産合計	10,175	90.9%	10,194	90.0%	△19	
負債純資産合計	11,558	100.0%	11,326	100.0%	232	

フリーキャッシュフローの推移

棚卸資産の増加等により営業キャッシュフローは増加せず、定期預金の預入等により投資活動によるキャッシュフローは減少した

(単位：百万円)



注)フリーキャッシュフロー(FCF)＝営業活動によるキャッシュフロー＋投資活動によるキャッシュフロー

2012年3月期の見通し

今期業績見通し

(単位：百万円)

	今期計画 (12/3)		前期実績 (11/3)		増 減	
	金額	比率 (%)	金額	比率 (%)	金額	伸率 (%)
売上高	7,100	100.0	6,758	100.0	342	5.1
売上総利益	2,400	33.8	2,268	33.6	132	5.8
販売費及び一般管理費	2,090	29.4	1,979	29.3	111	5.6
営業利益	310	4.4	288	4.3	22	7.4
経常利益	380	5.4	350	5.2	30	8.3
当期純利益	210	3.0	323	4.8	△113	△35.0
設備投資	100	1.4	88	1.3	12	13.6
減価償却費	160	2.3	157	2.3	3	1.9
研究開発費	700	9.9	646	9.6	54	8.4
一株当り利益	28.67	—	44.23	—	—	—

今期業績見通し

受注及び販売の見通し

(単位：百万円)

	受注高		売上高	
	金額	伸び率	金額	伸び率
プロセス事業	2,200	△12.2%	2,000	△10.6%
ウェブ事業	3,200	2.7%	3,500	22.5%
検査機事業	1,600	△2.1%	1,600	△3.8%
合計	7,000	△9.5%	7,100	5.1%

2012年3月期

～今期見込みのポイント～

- 通期における受注高は前年同期比9.5%減、売上高は同5.1%増で、営業利益は7.4%増の見通し。
- 震災復興に伴う経済の回復を見込み第3四半期以降の売上高をより大きく予想したが、ヨーロッパの経済危機やタイの洪水の影響により楽観は出来ない。
- ウェブ事業はこれまでのペースを維持し、検査機事業は受注残とタッチパネル部材、農業関係での受注拡大により、全体業績を伸ばす。プロセス事業は開発新製品の年度内販売を目指す。

セグメント別の実績と見通し

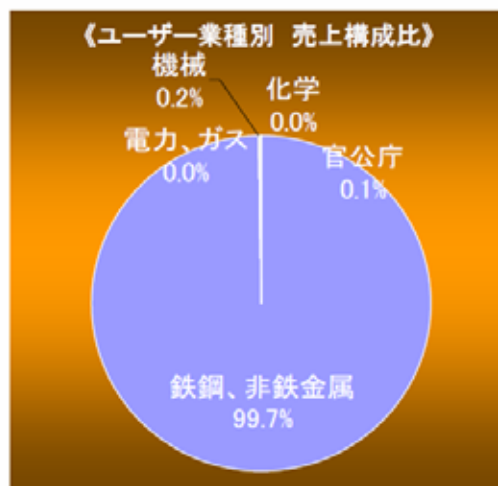
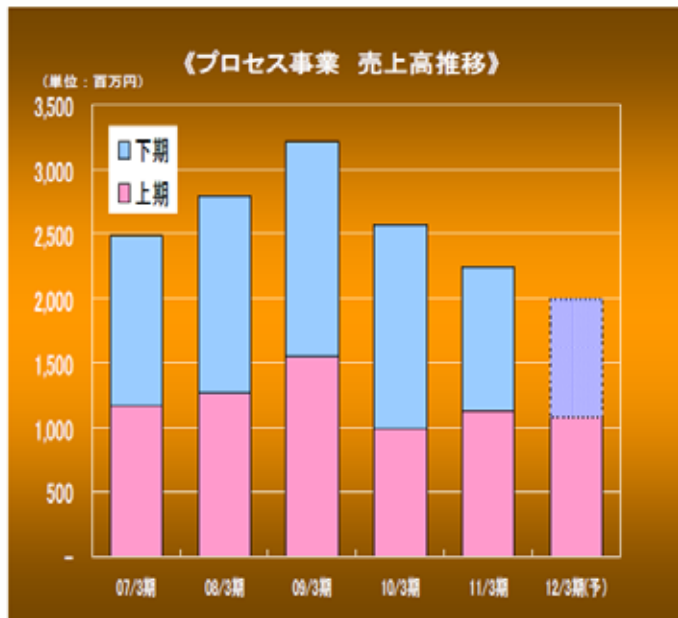
プロセス事業[※]

国内外とも新規需要は休止状態が続いた。再活性化には未だ時間がある。一方、サービス関係は好調を続ける。

受注が前年同期に対して7.4%増、売上が4.3%減

(単位：百万円)

売上高	1,079
セグメント利益	46



※プロセス事業の特徴や市場についてはINVESTORS GUIDE 25ページ以下を参照

セグメント別の業績と見込み(プロセス事業—今期見込み)

■国内鉄鋼業界の生産量は震災とその影響から回復傾向に転じたものの、生産施設の海外シフトは却って進んだ。国内では被災した施設の復旧に注力したため、改修計画が後回しに

(実績) 新規設備計画、改修の大型案件は停止状態

被災施設の復旧関係でサービス関係が好調、生産量の回復に伴い設備の部分的な改造等の中小案件を受注

(見通し) 国内鉄鋼業界の状況は、このまま続く見通し

(施策) 中小案件、サービス案件を中心に営業活動を継続

自動識別印字装置[※]、ネットワーク対応の耳端位置制御装置の販売活動を開始し、需要の掘り起こしと今後の設備改修へのPR

■海外ではアジア主要国で設備投資は休止状態

(実績) 新規設備計画、改修の大型案件は停止状態、新規獲得は中小案件が主

(見通し) 足下は変わらないものの、自動車向け電磁鋼板等を中心に中国、台湾、インドなどで設備計画が動き出し、進出を狙う日本の鉄鋼やプラント・メーカーと案件交渉が始まっている。

(施策) 今期に向けては中小案件中心に目先の獲得に努力。

ネットワーク対応の耳端位置制御装置や電磁式炉内CPCセンサ、自動識別印字装置等のPRにより今後の受注獲得に向けて有利なポジション作りを進める。

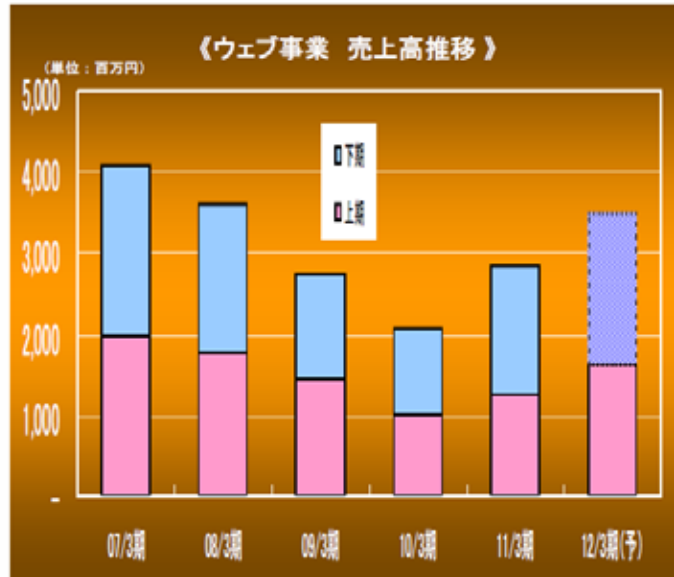
※自動識別印字装置、耳端位置制御装置についてはINVESTORS GUIDE 54ページ以下を参照

ウェブ事業*

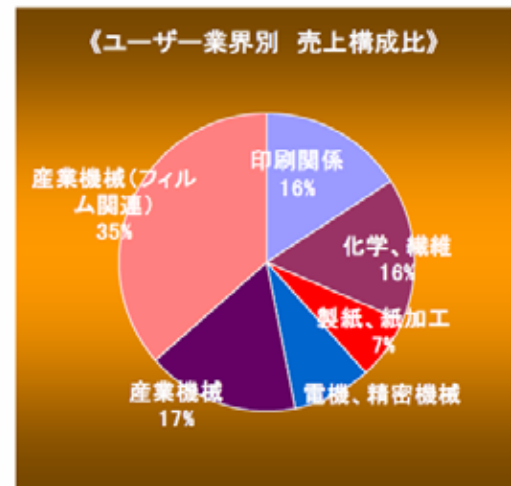
フィルム、電子部品関係中心に堅実に実績をあげた。このペースを続ける。

受注は前年同期に対し2.1%増、売上は9.9%増

(単位：百万円)



売上高	1,656
セグメント利益	196



※ウェブ事業の特徴や市場についてはINVESTORS GUIDE 33ページ以下を参照

セグメント別の業績と見込み(ウェブ事業)

■国内高機能フィルム関係は震災の影響やFPDの生産調整があったものの、タッチパネル向けの好調により、活発な設備投資が続いた。

(実績) 耳端位置制御装置[※]、張力制御装置[※]は堅実に売上・利益実績を重ねた。
機械メーカーの輸出向けで海外(欧州等)ライバルとの競合で価格競争が厳しくなった。

(見通し) 第2Q後半よりタッチパネル関係の設備投資が鈍化、スマートフォン需要は伸びており、一時的現象と見ている。一定レベルの設備投資は続いている。また電池、電子部品向けは好調。

(施策) 新製品のPR等を中心に、従来の活動を継続、堅実に実績を積み上げる。

(実績) 糊付け装置は検査装置の技術を取り入れたグルーモニター[※]を中心に実績を伸ばした。

(見通し) 着実に伸ばす期待が持てるため、注力を続ける。

■台湾、韓国、中国ではFPDの生産調整はあるが、全体に活発な設備投資が続いた。

(実績) ウェブ事業内で台湾、上海子会社と組織的に統合した体制で、堅実な実績伸長。海外グループ会社での現地生産も徐々に拡大、各社の連携も進む。

(見通し) 市場の活発な状態は続くが、価格競争は一段と進む見通し。

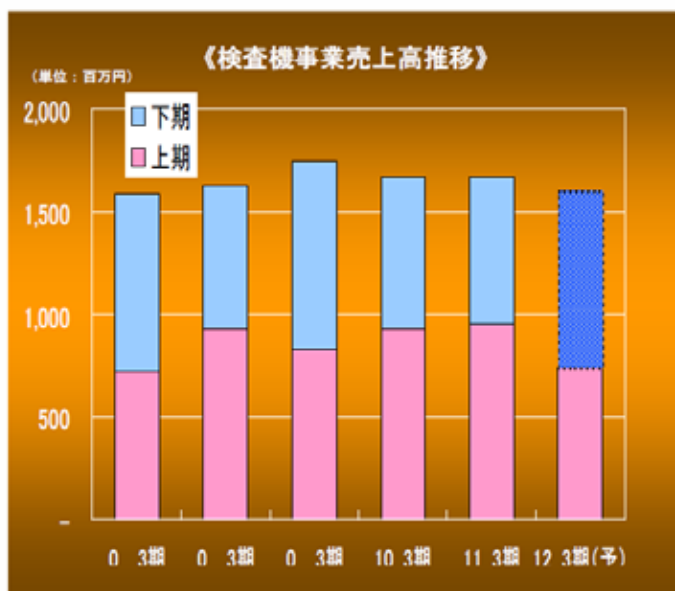
(施策) 従来施策を継続、強化して堅実な成長を目指す。

※耳端位置制御装置、張力制御装置、グルーモニターについてはINVESTORS GUIDE 58ページ以下を参照

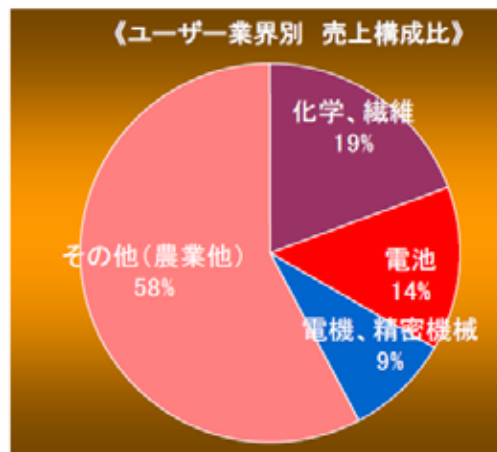
検査機事業*

フィルム、電子部品関係中心に堅実に実績をあげた。受注残は積み上がっており、受注獲得のペースを続けるとともに、売上計上を進める。

受注は前年同期に対し12.5%増、売上は2.6%増



売上高	727
セグメント利益	131



※検査機事業の特徴や市場についてはINVESTORS GUIDE 44ページ以下を参照

セグメント別の業績と見込み(検査機事業)

■無地検査装置関係はタッチパネル部材メーカーが好調を続けたが、検査装置への投資に今ひとつ力強さがなかった。

(実績) 前期に営業体制を変え、無地検査装置[※]に集中して活動した結果、知名度が上がり、顧客要求への対応が向上したことから、他社の顧客奪取が徐々に進んだ。
電極シート検査装置[※]は、海外(欧州)への納入と今後への引き合いが具体化してきた。

(見通し) 検査装置に対する設備投資は制御装置ほどの機敏性はなく、比較的慎重に進むため、継続的に間断なく続く見通し。大型電池関係は、量産体制が十分に固まっているが設備計画が具体化してきている。

(施策) タッチパネル向けや電極シート[※]向け検査ニーズに応じた、より高機能、高精度の能力をもつ次世代無地検査装置を開発中。今期中の投入の予定。

■農業関係は前年度補正予算の実行があったが、震災による復興予算が難航し、今年度は農業向け補助金については不透明な状態。

(実績) 前期補正予算実行によるみかん等の大型案件を獲得した。技術面、ユーザーへの対応による優位性により、目指す案件は確実に獲得している。

(見通し) 補正予算成立による即時実行の案件が待機している。

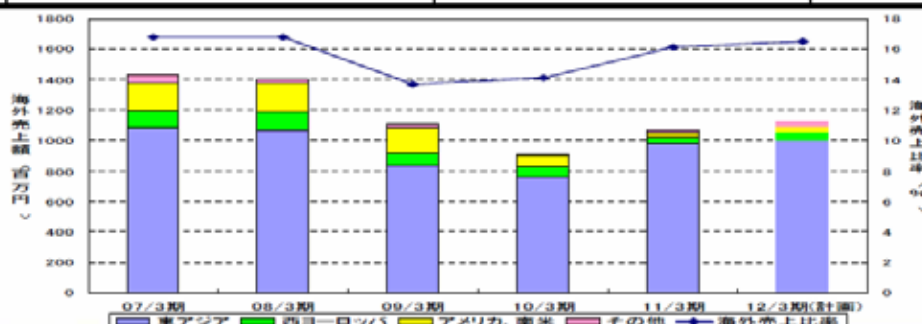
(施策) 待機案件に関わり受注獲得を確実にするとともに、落葉果実向けの活動を進める。

※無地検査装置、電極シート検査装置についてはINVESTORS GUIDE 63ページ以下を参照

海外施策の経過状況 とグループ会社の状況

海外と施策経過状況

	ウェブ事業	検査機事業	プロセス事業
全体	アジア市場の成長を取り込んでいく	引き合いには地域を問わず取り込む	アジアの成長を取り込むと同時に欧州でも展開
中国	中国仕様のウェブガイド(耳端位置制御装置)を製作、販売し、機械メーカー等着実に伸びている。 上海子会社の董事長に海外営業担当執行役員が就任し、営業強化	無地検査装置、電極シート検査装置への引き合いが増えてきており、売り込みを図っている	<ul style="list-style-type: none"> ●現地営業所との関係を強化。 ●韓国代理店を切り換え。 ●ヨーロッパ、米国は特殊製品の販売を継続。 ●ヨーロッパで渦流式溶鋼レベル計を販売開始
韓国	台湾、上海との協力体制で競争力を高め業績を伸ばしている。	農業向け検査装置を受注。欧州の選果機メーカーとの協力関係	
台湾	子会社での内製化が進み、着実な販売実績と相俟って収益に貢献。上海との協力体制が進む。		
その他	—	電極シート検査装置を前期にドイツで受注、今後は拡大を図る	



仁カク股价有限公司

台湾国内、中国、東南アジア等からの引き合いは良好。張力制御装置、印刷向け制御装置のノックダウン生産は順調。印刷向け制御装置と検査装置のセット、無地検査装置の受注を目指す。

ニレコ計装株式会社

震災の復旧をはじめ、各地の製鉄所が設備増強を抑えている分、既存設備の修理やメンテナンス需要が高まった。第1～2四半期で前年度の倍近い実績となった。

NIRECO EUROPE

サービスと引き合い対応に当たっている。

尼利可自動控制机器(上海)有限公司

新型の電気式耳端位置制御装置の製作を始め、地元の低価格の競合メーカーと戦う。ウェブ関係の制御装置、検査装置を機械メーカー、エンジニアリング会社に積極的に売り込み、着実に受注を獲得している。

ミヨタ精密株式会社

グループの生産会社。ニレコのウェブ事業の売上が伸びに応じ、また、生産効率化によるコストダウンにより利益面で寄与。

【グループ内売上構成比】



※各子会社についてはINVESTORS GUIDE 23ページを参照

中長期的ビジョン

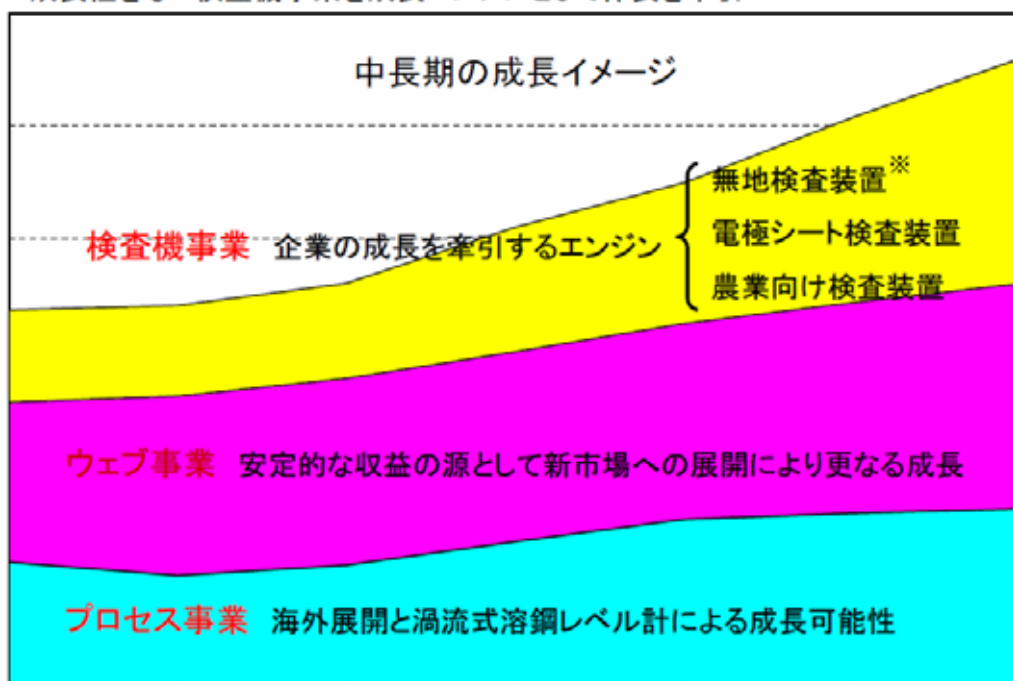
～中長期的ビジョンの基本方針～

1. ニレコの強みであるロールtoロールの制御と計測・検査を推し進める。
スマートフォンや電池等はロールtoロールで生産されているが、今後期待される薄膜太陽電池や有機ELテレビ、一部電子部品等もロールtoロールで生産されるようになる。これに適応できるように製品開発を進め、いち早く新市場に食い込む。
2. 規模の拡大よりも少数精鋭で収益を追求する。
3. 国内においては既存市場で顧客の要求を把握して製品に付加価値をつけてシェアアップを図る。新市場では早期参入を重視しナンバーワンとなる。
4. 海外においては海外の要求仕様に見合った製品を提供し、当面は新興国市場に注力する。
5. TPP参加をめぐり国内農業の弱さが明らかになった。農林水産業に工業で培った技術を導入して生産性を上げようとする動きがある。選果ビジネス以外でも農水産業の生産性向上に寄与できる技術開発を行う。

中長期的な将来イメージ

■新中期経営計画は春頃作成のため数値的根拠はないイメージ的なもの

既存事業を維持しつつ、持続的成長を目指す
プロセス事業、ウェブ事業を安定的基盤、収益の源泉として確保
成長性をもつ検査機事業を成長エンジンとして伸長を牽引



11年3月期
実績

12年3月期
見込

中期的将来

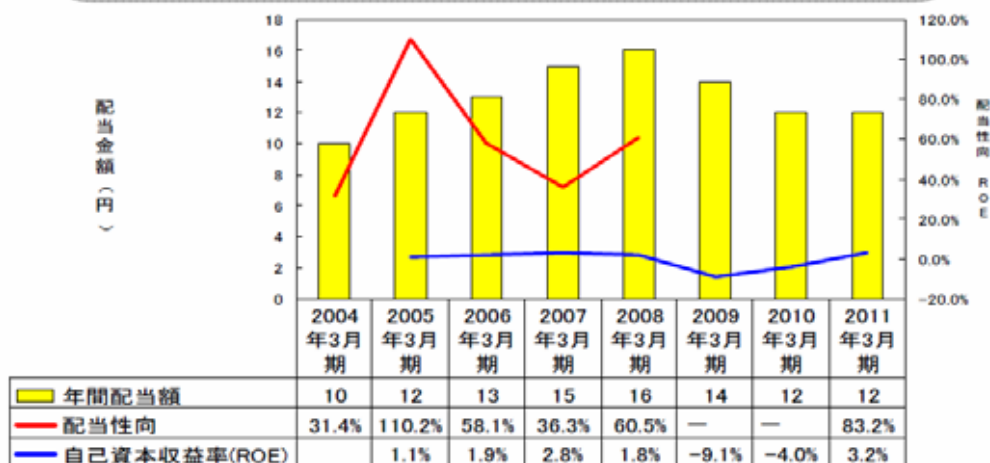
長期的将来

※各装置についてはINVESTORS GUIDE 63ページ以下を参照

自己株式は機動的な資本政策の一環として、株式の流動性を考慮しながら取得及び保有自己株式について検討する

安定配当を確保(配当性向35%以上の維持を原則)

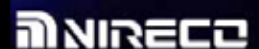
2012年3月期の中間配当金は6円/株を予定



3月初旬に約20万株の立会外分売を実施、その効果もあり期末株主数が550名⇒1,100名と倍増した。9月末株主数は1,043名となった。

補足資料

今期実績の補足説明



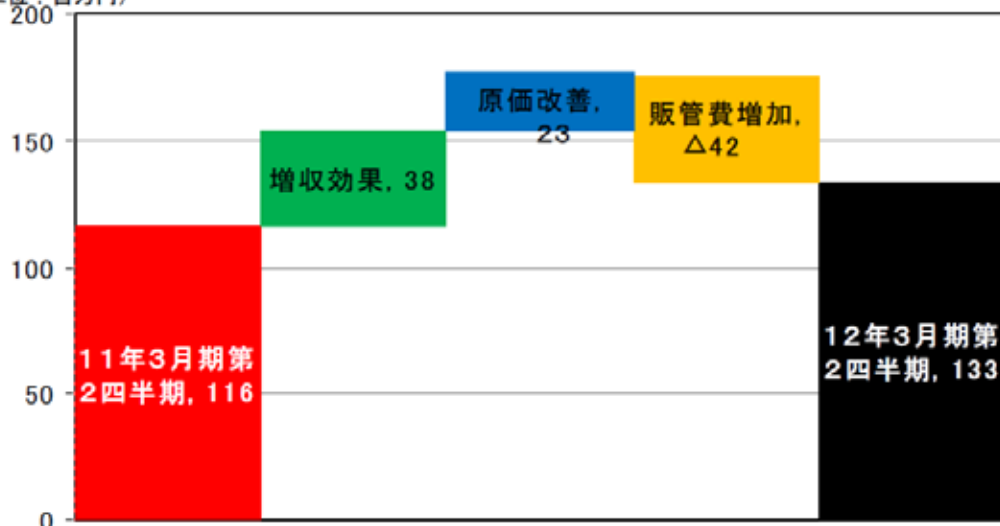
■ 前年同期と比べた利益の変動要因

増収効果: 売上高の増加のみならず、売上構成の変化による効果(ウェブ事業が増え、プロセス事業が減少したこと、プロセス事業でサービス関係の売上が多かったこと、農業向け検査装置の売上が多かったこと)

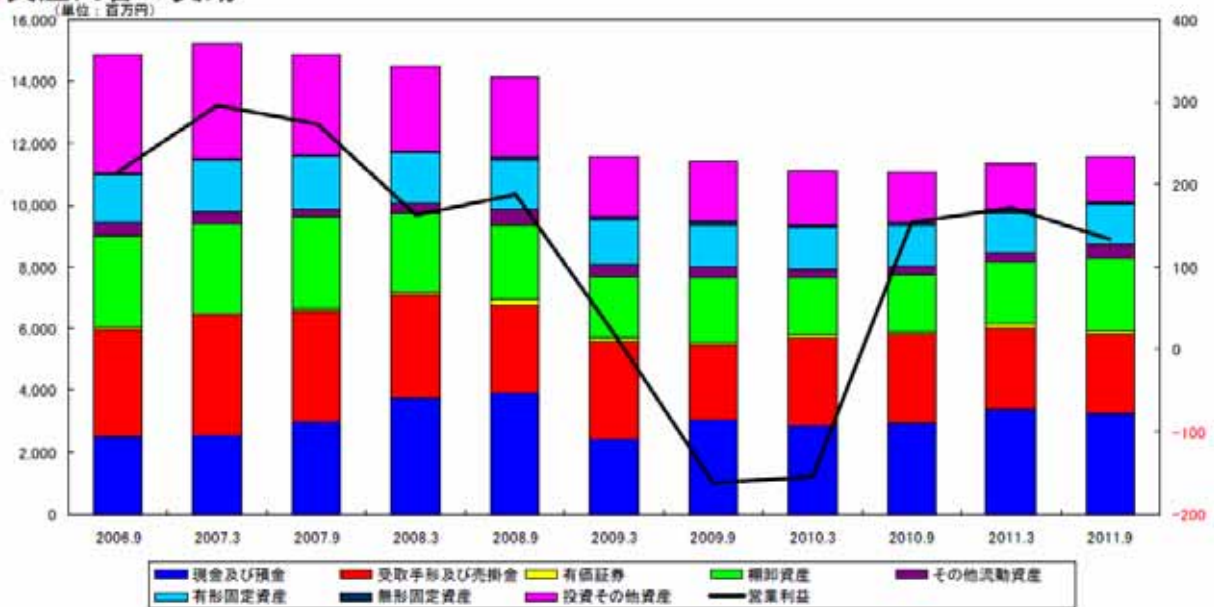
原価改善: とくに国内の生産子会社(ミヨタ精密)とニレコ計装でのコストダウンが進んだため

販管費増加: 前年の経費削減の揺れ戻しと震災・電力削減対策費用等

(単位: 百万円)



■資産内容の変動



現金：売掛金回収や在庫削減により効率性を高めるのと利益の計上により徐々に増えてきた

棚卸資産：標準在庫数や発注数量の見直しと滞留在庫の見直しにより節減。今期は受注残と短納期の受注に備えた仕掛品が一時的に増えている

投資その他資産：満期償還等により投資有価証券の減少を進めてきた。

セグメント別の業績と見込み(検査機事業—今期施策の経過状況)

■今期施策の経過状況

(無地検査装置)

中小型パネル、タッチパネルの部材好調

継続中

検査装置への設備投資は一時のストップ状態から再開したが、慎重な姿勢は崩していない。無地検査装置に営業活動を一本化し他社のシェア奪取に努力している。

二次電池向けの電極シート欠点検査装置e-FlexEye-RBのPRをさらに進め、リピートオーダーの獲得により受注アップを図る。

継続中

受注の獲得には至らなかったが引き合いは強くなった。各電池メーカーでは大規模な生産設備計画を進めようとしており、そのための中期的な引き合いが出始めてきた。

検査装置と分光計測による膜圧計とのセット販売で競合と差別化を図る

継続中

分光計測装置の受注が少しずつ獲得できてきた。知名度が今ひとつのため、検査装置の知名度に便乗させて浸透を図りたい。

(農業向け青果物検査装置)

農業向け検査装置は、引き続きみかん等大型案件に注力する

継続中

オンリーワン製品である生傷腐敗センサの優位性は生きており、情報を的確に掴み素早い営業活動により補正予算の実行による受注を獲得した。国会での第三次予算成立を機に予算実行のチャンスを逃さない。

■無地検査装置

フィルム、電子部品関係は止まっていた設備計画が動きだしたが...

タッチパネル向けの検査は従来以上の機能と高精度を要求

⇒無地検査とパターン欠陥検査

⇒インライン、高速対応

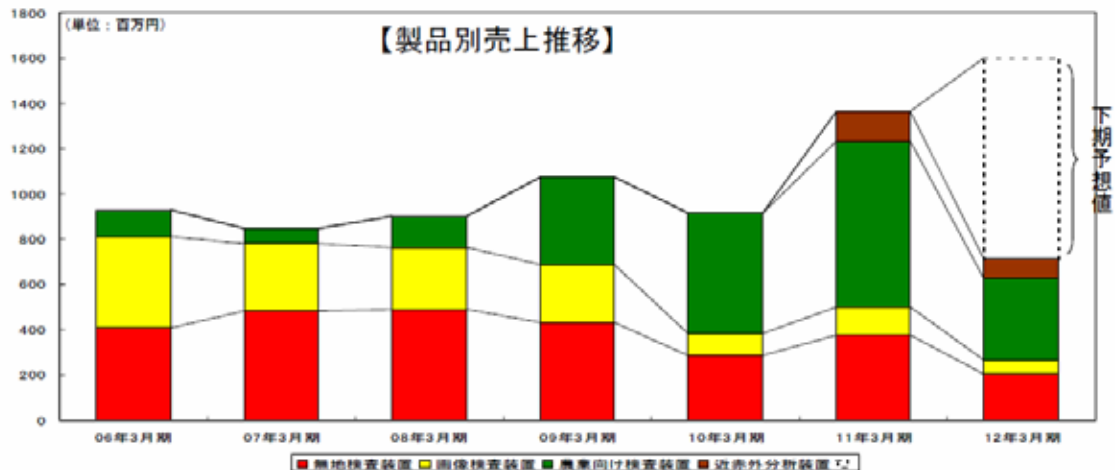
リチウムイオン二次電池向け電極シート検査装置は量産本格化に向け検査要求が高度化

⇒高精度の検査を広い範囲で漏れなく、高速対応

⇒湿性、乾性いずれの状態でも検査可能

■農業向け検査装置

みかん選果場の大型設備更新の計画は未だ数件あり、同程度の規模で落葉果実の設備がこれから農業関係の政府補助金の動向に左右されるが、都道府県が先行で予算を回し実行早期化のケースも



■リチウムイオン二次電池向け電極シート検査装置

➢ 今期は未だ受注が獲得できていない

既に納品したユーザーとのやり取りは頻繁で、リピートオーダーに向けての現場の議論は活発

➢ 当面の課題に対して

競合の参入や先行優位性の薄れはあるが、今期受注できていない要因ではない

電池の本格的量産に向けて一段のレベルアップが求められていて、現状では当社を含めユーザー要求に100%対応できる検査装置はない。

➢ 施策の状況

次世代無地検査装置の開発は順調。パワーアップした検査能力をベースにユーザーのニーズにこたえられる。(高精度の検査を広いシート幅全面を一度に検査、インライン、高速、乾湿対応)

分光式計測装置による膜厚計測は、徐々に受注を獲得し電池以外の分野からも引き合いが来る

■農業向け検査装置

➢ 当社の強みは保っている

10年以上の技術ノウハウ、情報の蓄積や生傷・腐敗センサというオンリーワン技術

➢ 施策の状況

・農業関係の補助金の動向に左右されるが、第三次補正予算成立で即実行予定の案件がある(収穫の時期が迫っているため)

・国内選果場以外への展開

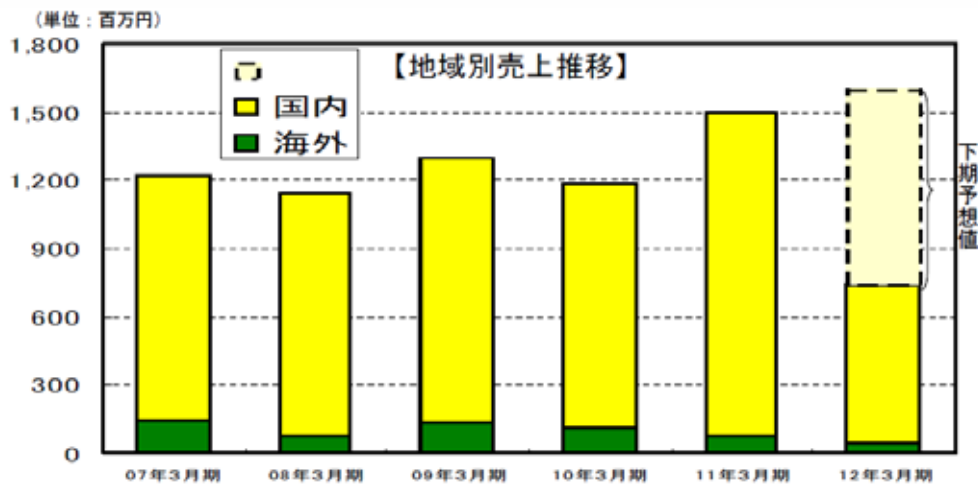
⇒韓国や中国の商品性の高い農産物を対象にして欧州の機械メーカーとの提携を進めている

⇒農産物の加工品向け検査の開発を始めている

⇒その他については継続して取り組んでいる

■ 海外施策と経過状況

- 次世代無地検査装置の開発
開発は順調に進んでいる、能力アップした無地検査装置で海外でのユーザー要求に余裕をもった対応が可能となる。
- 無地検査装置、電極シート検査装置を海外に向け販売
欧州(ドイツの電池メーカー)に電極シート検査装置の納入
- 分光式計測装置の製品開発
国内の引き合いが増えてきたため、海外向け開発は遅れ気味



セグメント別の業績と見込み(ウェブ事業)

今期施策の経過状況

(国内施策)

前期投入した新製品をPRし、更新需要の刺激と国内シェアアップを図る

継続中

展示会への出展、営業活動でのPRで、フィルム関係への働きかけにより売上へ。

印刷向けについては、印刷品質検査装置の技術を応用した製品開発を進める

継続

糊付けの検査機能をもつグルーモニターの高精度新製品が好評で受注に注力。

(海外施策)

中国、韓国等のアジアの各拠点での営業活動を継続し、受注増を図る
⇒韓国は安定した受注を上げており、パネル大手や機械メーカーへのアプローチを強める

継続中

韓国での耳端位置制御装置、張力制御装置は順調に伸びている。

⇒中国へは機械メーカーや代理店の掘り起こしにより販売網を強化

継続中

中国では広州の現地機械メーカーと提携し、ウェブ制御機器の確実な受注を見込める。

台湾、中国での現地生産体制に加え、各拠点相互協力体制を強化

継続中

台湾は主に電気系統、上海は機械加工と各々の特徴を活かして分業、協力を進めている。

■第1～2四半期の実績は期首の予想以上に厳しい環境

タッチパネル、フィルム関係の設備投資が一時的に伸びが止まった

←フラット・パネル・ディスプレイは生産調整

←タッチ・パネルは新製品の相次ぐ開発と目先の不確定要素

(中長期的には、市場拡大の可能性は高い)

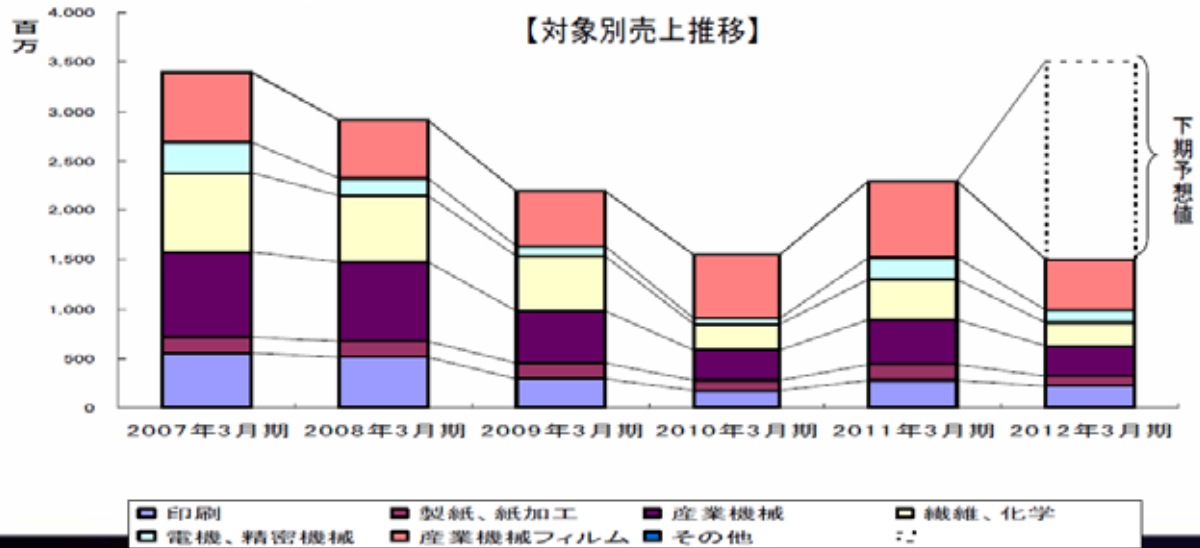
■第3四半期以降の動向

機械メーカー(コーター、スリッター等)は海外向けと電池関係で大きな受注残

→海外輸出用にセットする制御装置は現地や欧州のメーカーと激しい競合(価格競争)

タッチ・パネル関係を主として電子部品の好調は続く

タッチ・パネルの設備投資は、再び伸び始める(今期中?)



■超音波オートワイドセンサ

➢ 前期に販売開始し順調に実績を積み上げてきている。

➢ フィルム業界のユーザーニーズを捉えた

透過性のフィルム素材に対して、超音波による検知のため、精度が向上

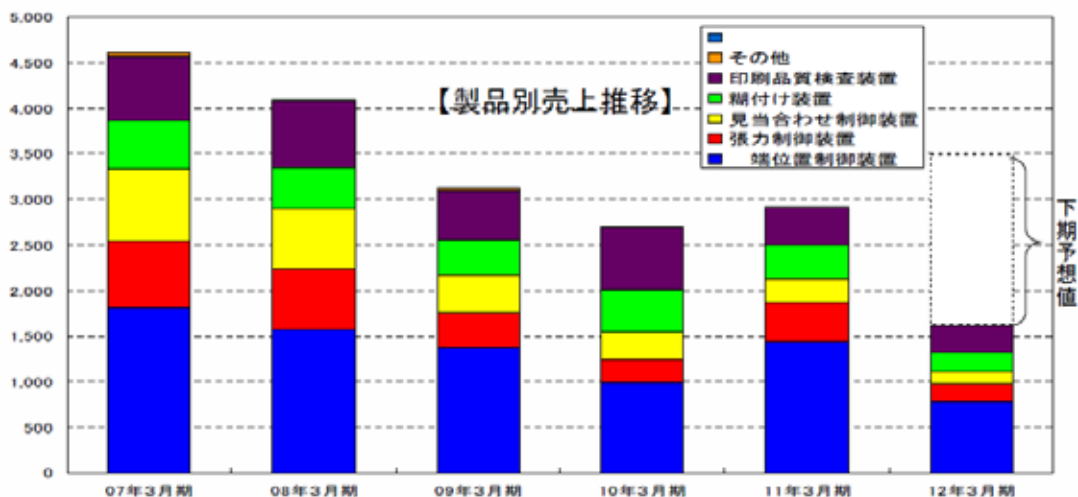
オートワイドで様々な幅の素材に対し瞬時に対応し、オペレーターの手間を省いた

メンテナンスフリー

特にクリーンルーム内での使用ニーズに応えた

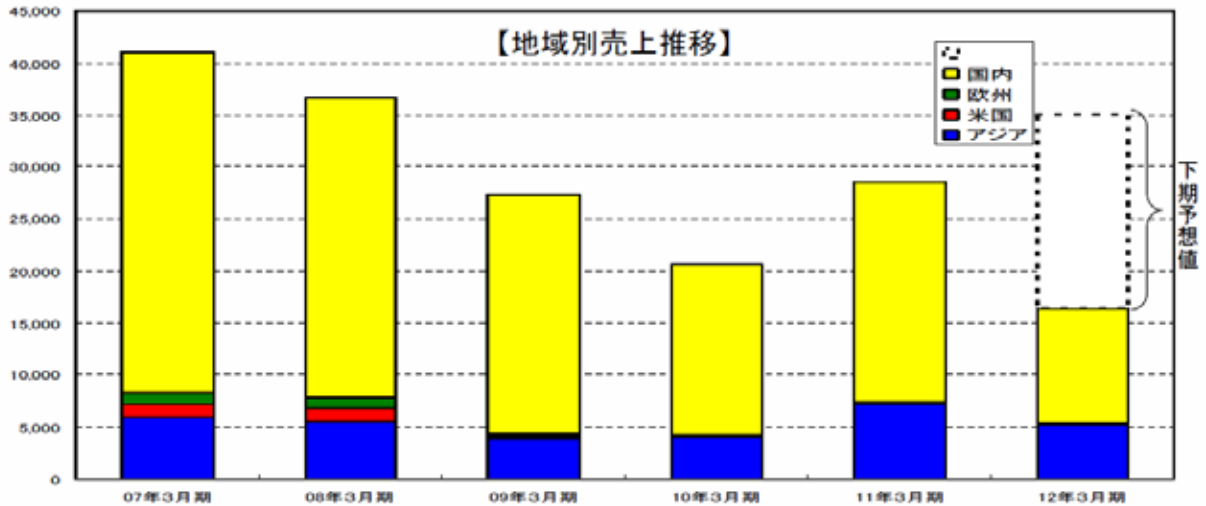
➢ 今後の施策

現在開発中の新型ライトガイドとセット販売していくことで、フィルム向けの更なる受注アップを図る



■ 中期的な海外施策と経過状況

- 中国、台湾の現地生産体制の強化による現地生産、現地販売体制の推進
ウェブ事業部の中に海外営業課を設け統括管理する体制とした
- 新分野の開拓
高機能フィルム等の海外生産に対応して、現地競合メーカーとの主として価格競争に勝つため簡易型EPCの開発を進めている。



セグメント別の業績と見込み(プロセス事業—今期施策の経過状況)

今期施策の経過状況

(国内施策)

設備の部分更新・部分改造等中小案件や電炉・特殊鋼メーカーの需要掘り起こし

継続中

ニレコ計装(サービス子会社)との連携と旧型製品のユーザーへの働きかけを継続
自動識別印字装置等のPR活動による需要喚起

新しい自動識別印字装置を従来以外の市場に売り込む

継続←遅れ

国内大手メーカーの製鉄所にて試験運用中で、その結果待ちで次段階

(海外施策)

上海で製作の自動識別印字装置をアジアで販売

継続中

インド向けに続き台湾向けを受注。インド向けと別タイプの装置を製作中

欧州で渦流式溶鋼レベル計の直接販売を開始

進行中

現地進出の連続鋳造関連の日系メーカーと提携の方向
ドイツの展示会に出したところ興味を示したユーザーが10月にテスト

ネットワーク対応の耳端位置制御装置を市場投入

進行中

開発が佳境にあり、第4Q販売開始に向け順調に進行している。

■ 早ければ来期と予想した国内市場の回復は遅れる見通し

メンテナンスや予備品の購入は、震災復旧のためもあって堅調更新、増設の計画は、緊急性の高いもの以外は震災復旧の後に自動識別印字装置に対する設備投資も終息の傾向

■ 海外市場は、回復の兆しが見えてきた⇒受注までは1~2年先

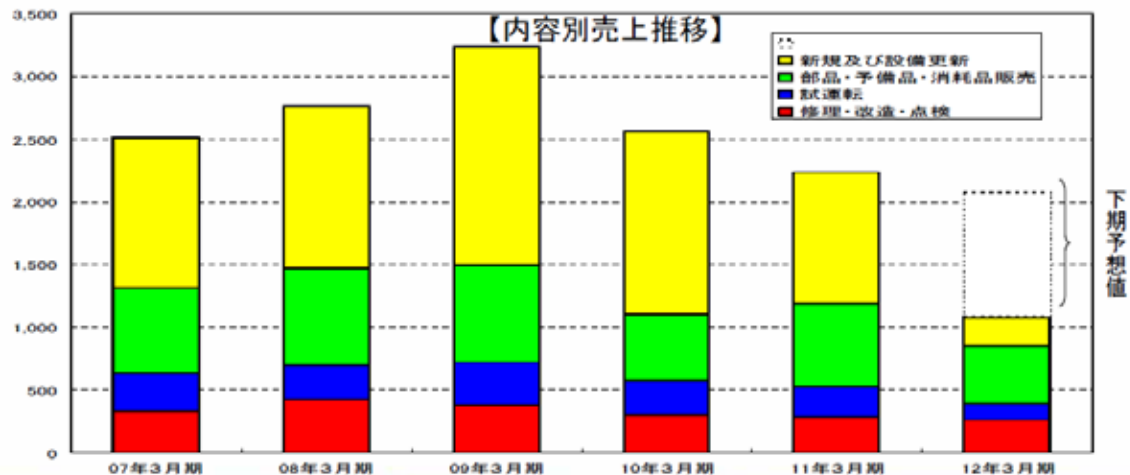
中国:品質向上と自動車用鋼板ラインの計画

韓国・台湾:自動車用鋼板等についてインド等海外と提携のラインの計画

インド:自動車用鋼板ライン等日本のメーカーも協力した案件も動いている

⇒未だ計画段階にあるが、日本のプラント・メーカーの動きが活発化、水面下では受注に向けた具体的交渉も

⇒新日鐵、住友金属の合併により大規模な海外進出の可能性



■ 自動識別印字装置による販売圏拡大

- 製鉄所の工程管理システムの中に自動識別印字装置を組み込む件
大手鉄鋼メーカーとの共同開発中で試作機を前期末に試験投入し、結果待ちの状態
- ロボット式自動識別印字装置
開発中であるが、震災と電力供給の混乱への対応等で自動識別印字装置への引き合いが減少した。

■ 渦流式溶鋼レベル計の欧州販売

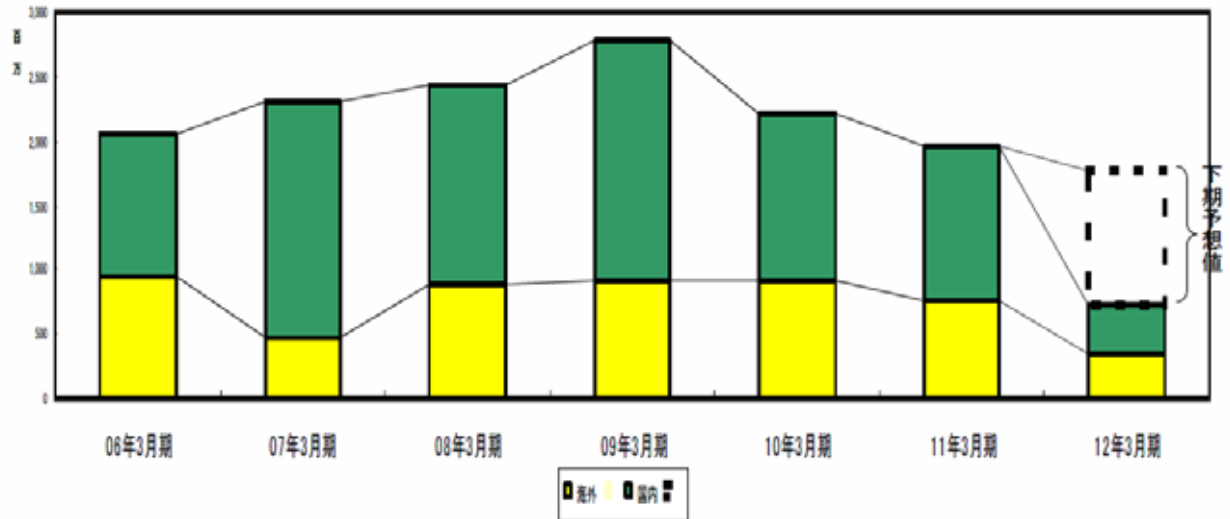
- 現在の状況
連続铸造ライン関連機器の日系メーカーT社と販売協力関係を進めている。T社は当社の渦流式溶鋼レベル計を武器に自社製品を販売し、併せてサービスも担当する。
メリット:T社に販売を代行してもらうことで、現地に知名度がないハンデを克服でき、サービス体制もT社が欧州に支店網を有するのでサービス員の養成だけで体制が早期に整う
ドイツの展示会でT社の出展に渦流式溶鋼レベル計を参考出品したところ問い合わせがあった
- 新展開、課題
マイクロ波(電磁波)を用いたレベル計を開発、精度では渦流式に劣るが取扱の容易なことと価格を抑えられるメリットがある。従来の安価な放射線式に替わるものとして売り込む。
海外、国内からも問い合わせが来ている。

■ 中期的な海外施策と経過状況

- 国内鉄鋼メーカーの海外生産に応じた一定のスペックで価格を抑えた製品開発
- 上記製品により、品質重視に転ずる海外製鉄所への売り込み
- 上流の欧州機械メーカーを押さえ、欧州経由のアジア販売ルートを開拓
- 新技術としてマイクロ波の開発

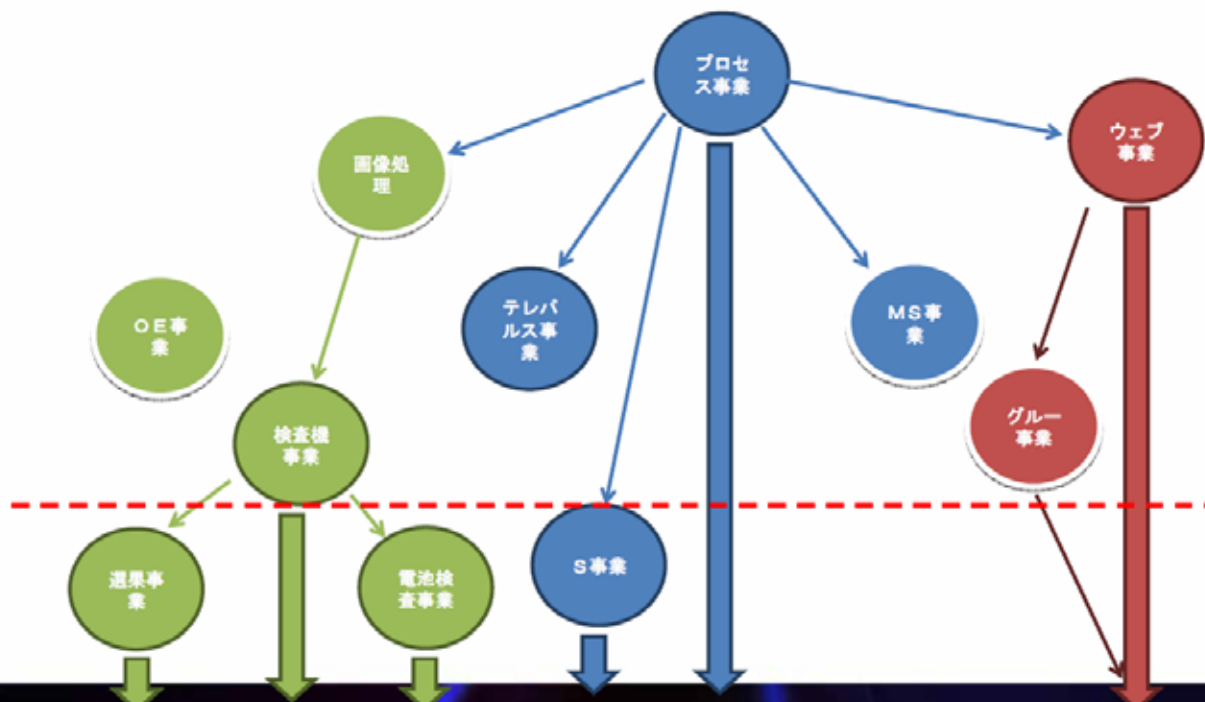
マイクロ波による溶鋼レベル計を製品化、渦流式より低価格な製品を欧州での販売ラインアップに加え、中級程度レベルでの浸透を図る。

ドイツでの展示会に参考出展したところ、数社が興味を示した。



戦略的な成長イメージ

- ニレコはもともとプロセス事業に端を発し、この幹から枝葉を広げるように技術の応用により派生事業を成長させてきた。将来的にも、この方式での成長を図る
- プロセス事業⇒従来製品は一層の海外進出、渦流式溶鋼レベル計はS事業として独立
- ウェブ事業⇒国内外で新市場への展開も含め持続的成長
- 検査機事業⇒電池向検査、農業向検査は力強い成長により会社を支える独立の柱に



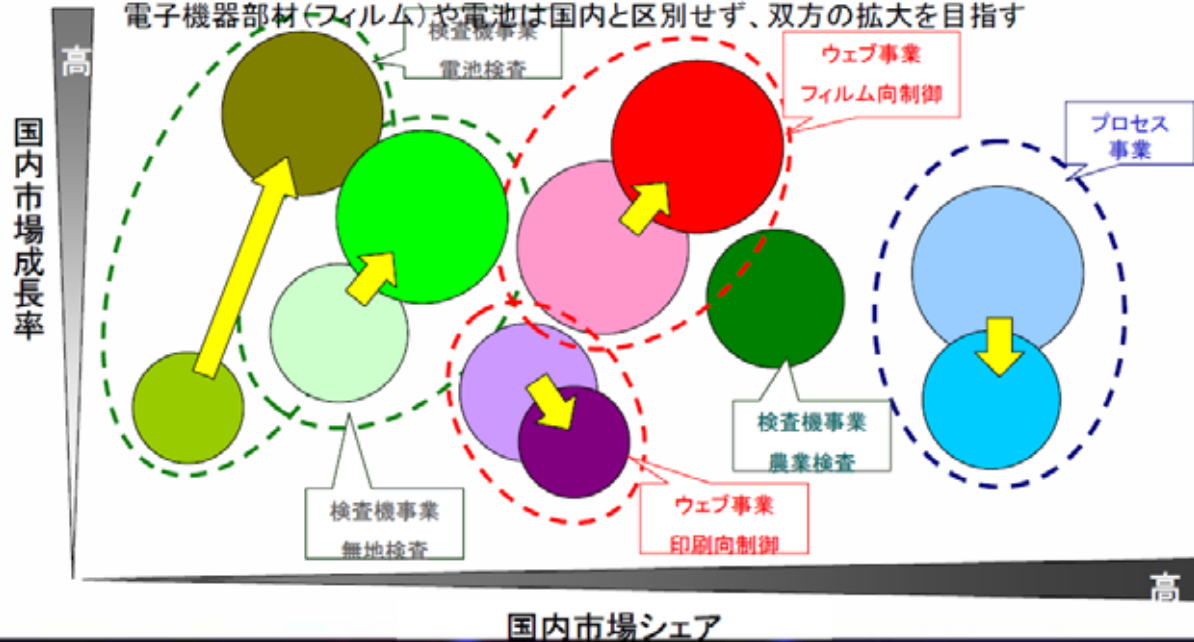
■既存市場でのシェアアップ+α

電子機器部材(フィルム)向制御と検査、印刷向制御と検査はシェア奪取
電池向検査と制御は市場の成長に乗り、シェア拡大を目指す

■海外市場で既存事業を伸ばす

プロセス事業はアジア、一部製品を欧州への市場展開による成長に
印刷向はアジア市場に成長を託す

電子機器部材(フィルム)や電池は国内と区別せず、双方の拡大を目指す

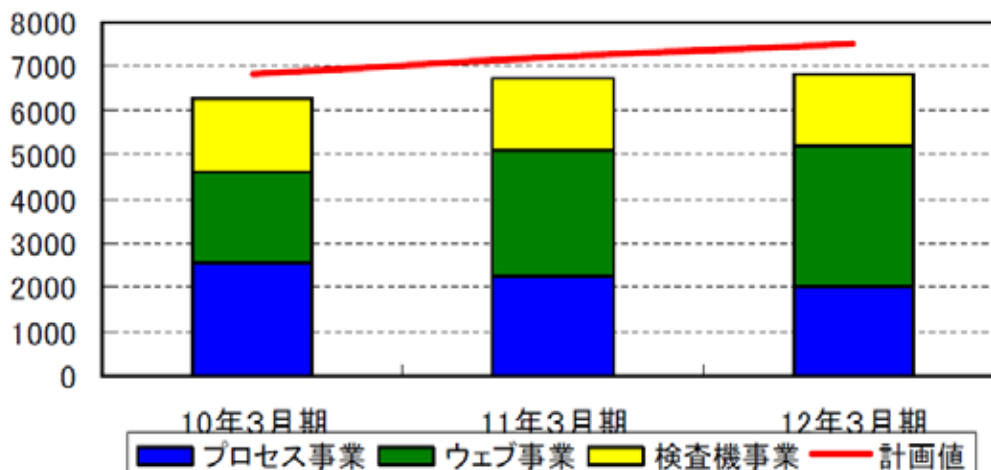


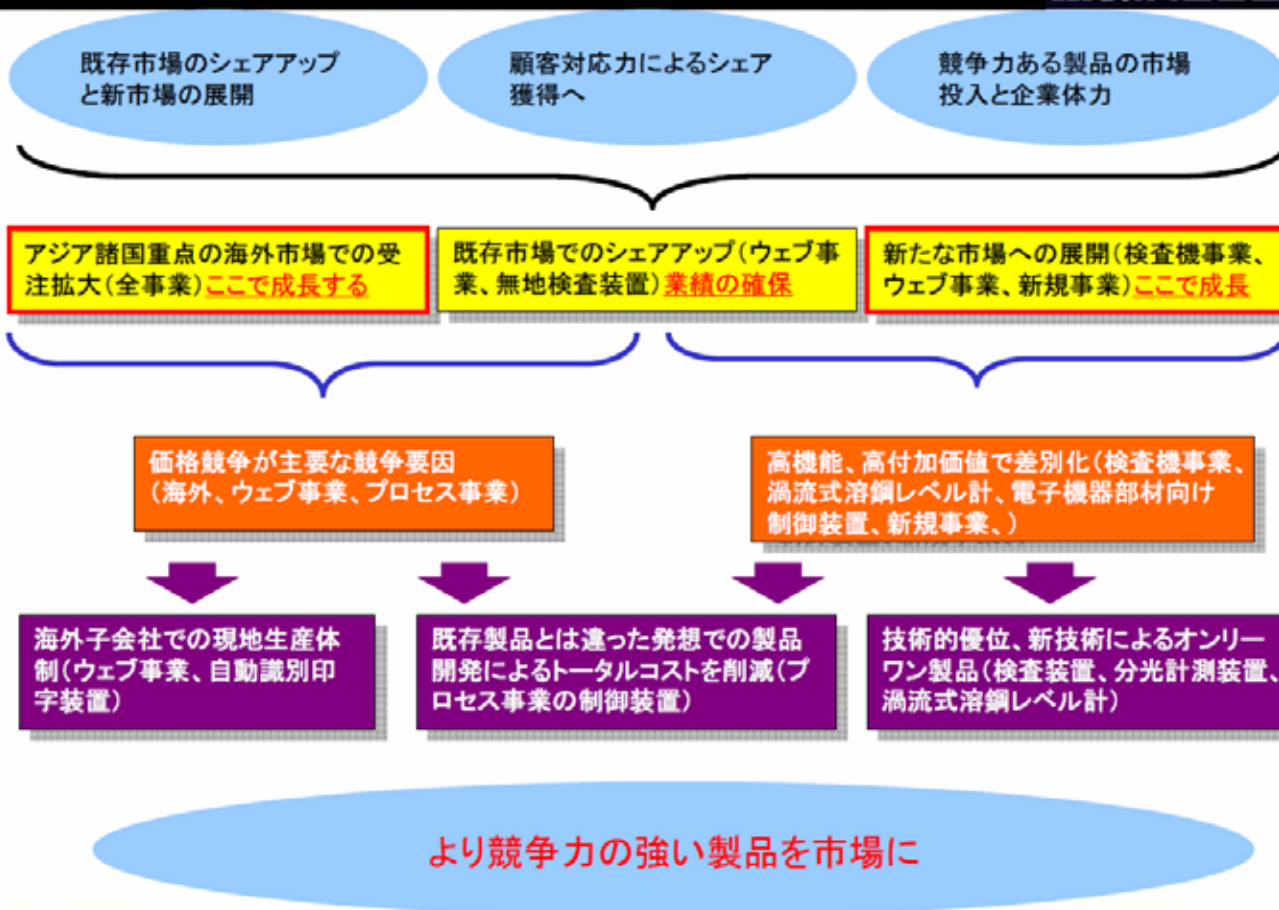
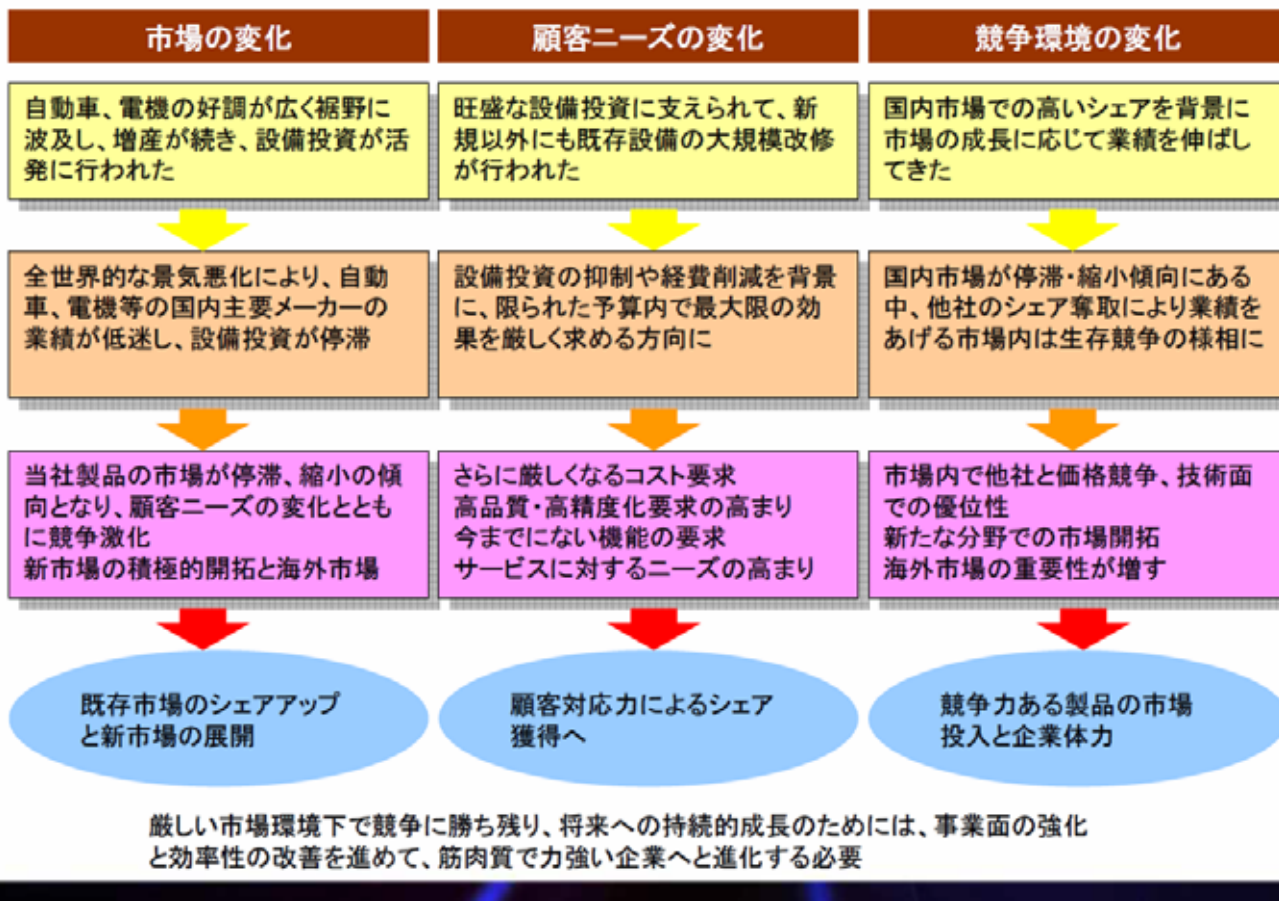
中長期的な将来イメージ(現時点での現中期3ヵ年計画の総括)

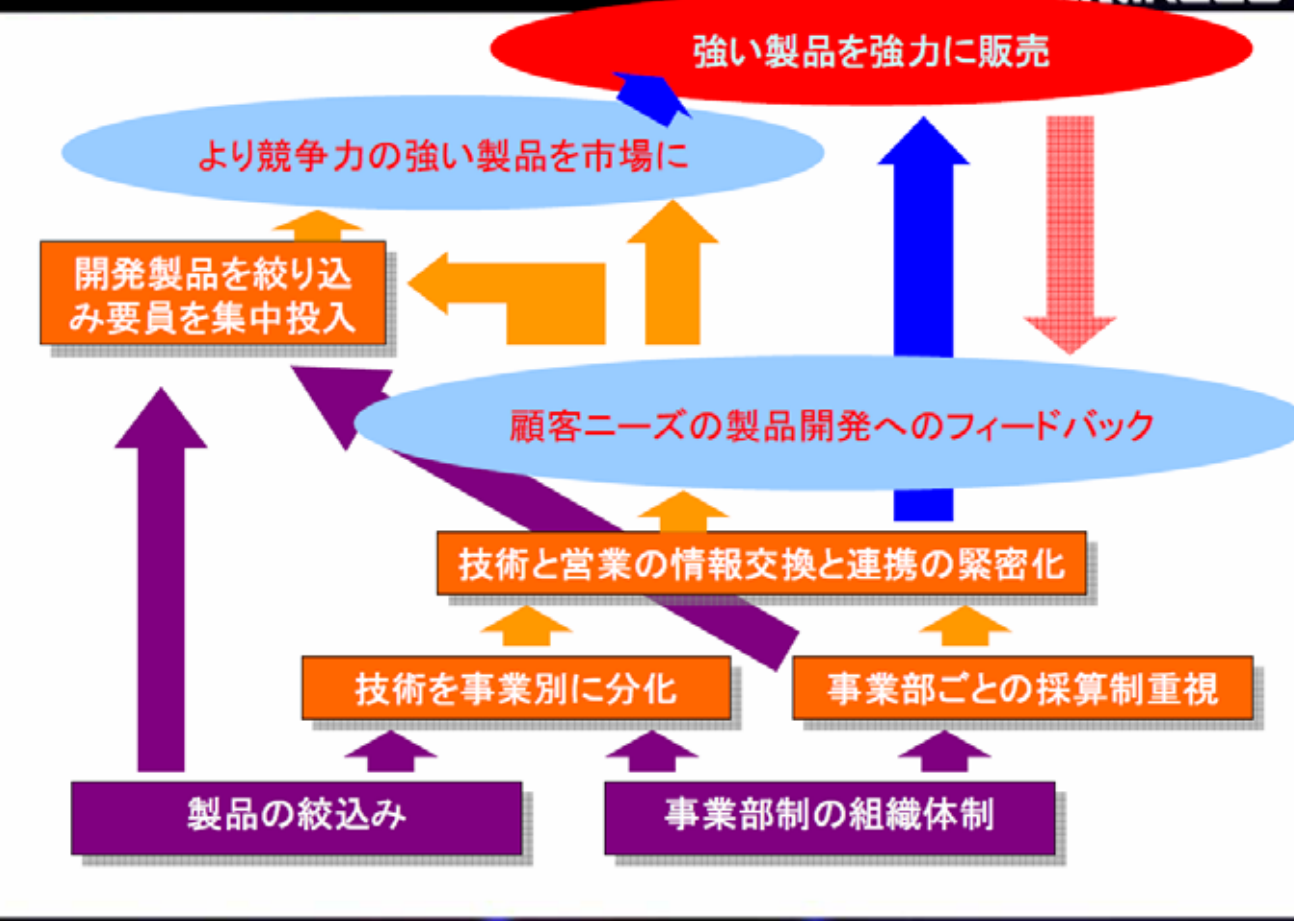
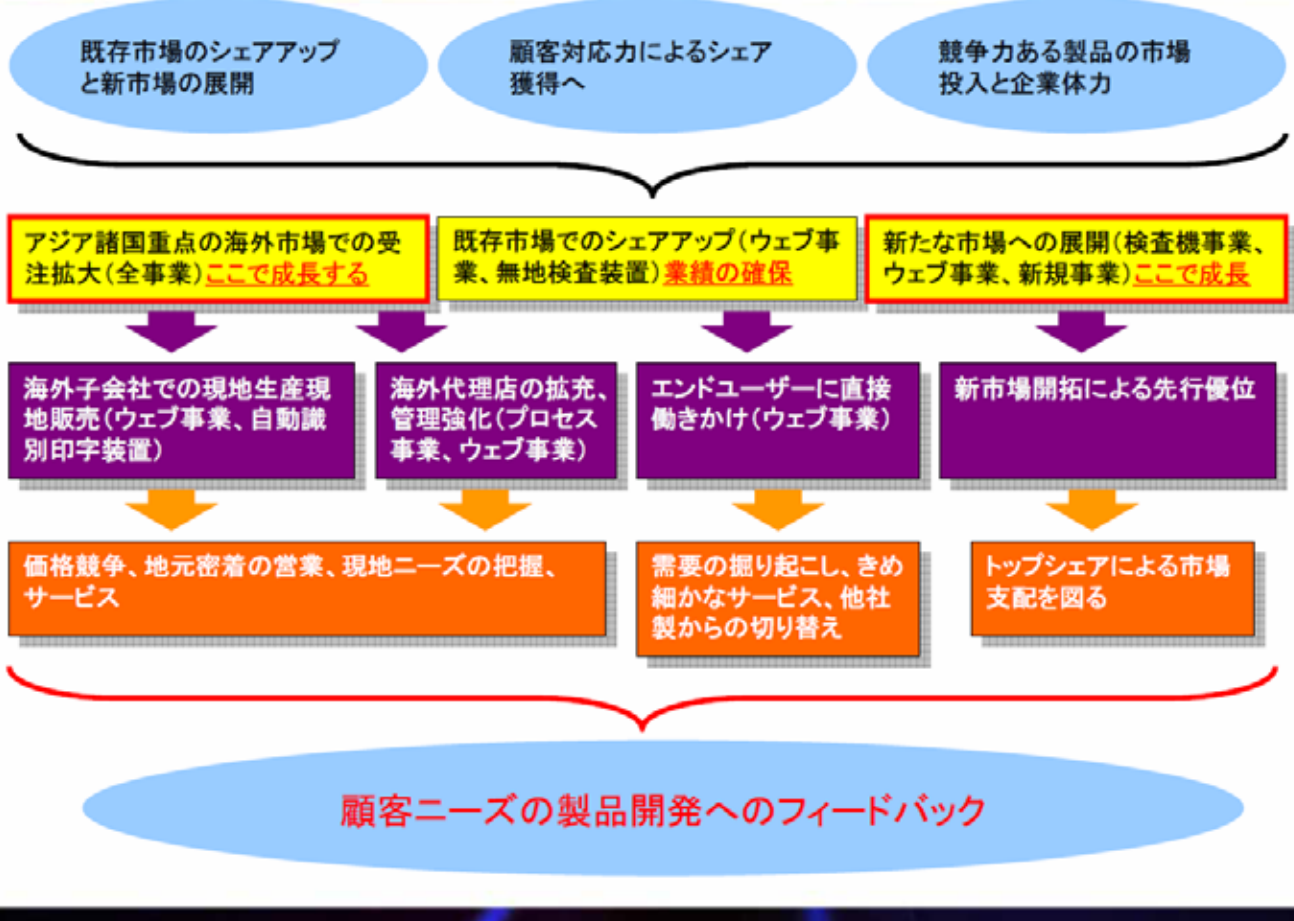
■現時点での現中期3ヵ年計画について

- ▶ 計画初年度に予想を超える環境の変化により売上が落ち込み営業損失に
目先の営業黒字復帰と、予想外の環境急変に振り回され単年度ごと施策に集中
⇒1年で黒字復帰を果たし、将来への布石を置きながら、受注・売上を上昇させた
- ▶ グローバル化により国内外の市場構造が流動化
国外に市場を求めて海外の他社と競合から、国内市場に海外競合が進出の気配
⇒市場を国内外で区別できず、グローバル戦略体制での競争(価格等)を国内でも
- ▶ 既存事業へのテコ入れによりさらなる可能性
厳しい状況の中で、ウェブ事業等の底力が支えに⇒資源を最大限活用しきる

中期3ヵ年計画と実績







より競争力の強い製品を市場に

単なるコストダウンやスペックを下げたりするだけでなく、新技術や視点を変えることで、付加価値と付けたまま、価格競争力も持たせる

● **電磁波式炉内CPCセンサ**



従来方式の炉内据置型のセンサに比べて、電磁波の送受信部分のみを炉内にセット。そのため高温高压の厳しい環境に耐え得る特殊金属の使用部分を大幅に縮小。また設置工事の手間も大幅に節減。

精度を向上させただけでなく、コスト面でも従来製品よりも節減した。

● **ネットワーク対応の耳端位置制御装置**

従来方式の耳端位置制御装置は、センサ、アクチュエータ、コントローラの3点がそれぞれ揃ってセットとして、ラインの各部に設置されていた。これを、それぞれ単独で作業させることから、ライン全体をひとつのコントローラで統一的にコントロールすることによって、ライン各部に数台設置していたコントローラをライン1台の設置で足りるようにし、ライン全体を統一的に制御することにより、その他の機器の設置台数を節減することが出来、生産ライン全体の制御をトータルでコストダウンさせることを可能にした。

検査機事業

企業の成長を牽引するエンジン

無地検査装置

タッチパネル関係の検査機ニーズはしばらく続くことが予想される。

電極シート検査装置

リチウムイオン二次電池市場はこれからの成長が大きく期待され、市場の成長に乗じた伸長でも最低限かなりの伸びが期待できる。

農業向け検査装置

農業選果場の未実行の設備計画はまだ多い。政府補助金が不安定と言うリスクはあり、新たな展開(海外、加工品の検査)による更なる成長により3事業に比肩するスケールに

ウェブ事業

安定的な収益の源として新市場への展開により更なる成長を

現在の稼ぎ頭であり、業績の牽引事業である。最低限このスケールを保ち続けるため事業内での対象ユーザー範囲を広げ、更なる成長を目指す。成長率は期待できない。

プロセス事業

海外展開と渦流式溶鋼レベル計による成長の可能性

現在は苦戦しているが、国内製鉄所の設備改修の時期に差し掛かろうとしている。海外ではアジア地区に設備投資活性化の兆しあり。また、欧州での渦流式溶鋼レベル計は事業として独り立ちし、プロセス事業と肩を並べる可能性がある。

■ 検査機事業の成長ビジョン

下の各主要製品を積極的に伸ばし、成長のエンジンとなる。

- **無地検査装置は国内では他社のシェア奪取、アジアへ販売地域を広げ受注拡大。**
次世代無地検査装置の開発、市場投入によりタッチパネル向け検査を能力差によって他社を跳ね除け押さえる。
旧世代無地検査装置を価格を抑えてアジア市場に投入する。
- **電極シート検査装置は車載用大型リチウムイオン二次電池の本格的量産の波に乗り、単独で事業部を起こせるビジネス規模を目指す。**
既に納入したユーザーが本格的量産に入り大型のリピートオーダーを確保する。
次世代無地検査装置をベースに機能アップ、精度アップによって、本格量産以降により新たに発生する検査ニーズにいち早く対応し、導入時の受注を押さえる。
国内外の別なく、導入時の受注獲得によりリピートオーダーによる拡大を狙う
- **農業向け検査装置は、選果場設備案件シェアを押さえ、海外と農産物加工品等の新たな市場展開を図りアグリ事業として主要3事業と肩を並べるビジネスへの成長を目指す。**
生傷・腐敗センサの優位性は維持、知名度が高くなり、さらに強力な武器となる。
単年度の農業補助金予算が削減されたことにより選果場の設備更新時期が分散化し、ニレコの占有率が高まった。
農協関係から民間企業による農業事業、農産物の加工品等の新たな市場への展開。
海外の商品性の高い農産物を新たな対象に加える(韓国、中国、米国)。

■ ウェブ事業の成長ビジョン

既存ビジネスの維持を続け、新市場展開で収益をアップ。

- **タッチパネル関係の好調は当分続き、確実に受注を獲得する。**
新型ライトガイドを開発し、市場投入。
リチウムイオン二次電池や薄膜式太陽電池向け制御装置も本格量産のための設備投資に期待。
- **中国、台湾、韓国での受注拡大により、事業の成長を図る。**
上海、台湾の子会社が協力して製品の生産を進める。
⇒コストダウン、現地ユーザーへの素早い対応
韓国代理店は積極的な活動により受注獲得高を伸ばしている。
新型ライトガイド、新型テンションセンサを現地生産、現地販売により受注拡大を図る。
- **検査装置の技術を利用した製品を開発、市場投入により新市場獲得。**
グルーモニターは順調に受注を伸ばしており、営業活動を進める。
検査装置の応用による多機能のセンサを開発し、有機EL、プリンタブル・エレクトロニクスに分野への進出を狙う。

■ プロセス事業の成長ビジョン

現状の苦境を脱し、安定的な収益と成長を図る。

- **国内製鉄所の既存設備の大型改修や更新時期が近づいている。**
従来からの経緯からニレコ受注の可能性は高く、一定規模の受注高が期待できる。
景気状況により設備更新計画は先送りされるリスクがある。
- **一時休止していた中国等のアジア諸国の設備計画が再開する模様。**
日本のプラントメーカーが情報収集と受注に向けた活発な動きを見せている。
自動車用薄板等の品質重視の大型プロジェクトが計画されている模様。
価格競争は相変わらずだが、機能や品質といったニレコの強みを出せ、受注獲得に期待
←新製品ラインアップで価格競争力もアップ
- **渦流式溶鋼レベル計を中心に連続鋳造工程向け製品をヨーロッパ経由で海外へ。**
渦流式溶鋼レベル計を欧州で直接販売を開始。連続鋳造関連メーカーから販売提携も
マイクロは波を用いた溶鋼レベル計を新たに開発。精度では渦流式に劣るが価格や使
いやすさに特徴。高級向けは渦流式、中級向けはマイクロ波と階層別に売り込み。
特に中級向けは放射線方式からの切り替え需要を狙う。
ヨーロッパのメーカーの連続鋳造機にセットされることで全世界への拡販を狙う。
溶鋼レベル計を糸口に連続鋳造工程の計測装置や制御装置を開発し、受注拡大を目指す。

会社概要

会社名	株式会社ニレコ
証券コード	6863 JASDAQ(1989.10上場)
所在地	〒192-0032 東京都八王子市石川町2951-4 Tel:042-642-3111
事業内容	計測・制御機器の製造販売
設立	1950年11月
代表者	代表取締役社長 川路憲一
資本金	3,072百万円
時価総額	43億円
株主数	1,178名(11.3期末)
従業員数	355名(11.3期末)



【八王子事業所】

営業所等

京橋事業所	〒104-0031 東京都中央区京橋1-16-13 アサコ京橋ビル
大阪営業所	〒542-0081 大阪市中央区南船場4-8-6 測上ビル
九州営業所	〒802-0001 北九州市小倉北区浅野1-2-39 勸和興産 浅野ビル

ウェブ (web) コントロールの総合メーカー

Webとは、英語の織物とかロールをさす言葉です。
コンピュータ・ネットワークで使われるWeb(蜘蛛の巣)とは違う意味



工場の様々な生産ラインで元素材をウェブの形で取り扱うケースが多く、フィルム、製紙、印刷から鉄鋼まで幅広い分野で行われています。
近年では、液晶や電子部品の材料となる高感度フィルムや太陽電池の素材などもウェブの形で取り扱われています。

工場内ではウェブ特有の各種の自動制御を行っています。これをウェブコントロールといい、近年、生産性向上のためラインの速度は上がり、一方で品質の向上と安定操業の必要も高いので、ウェブコントロールのニーズは増えています。

会社概要—ニレコの特徴

独自の技術を持った技術Oriented企業

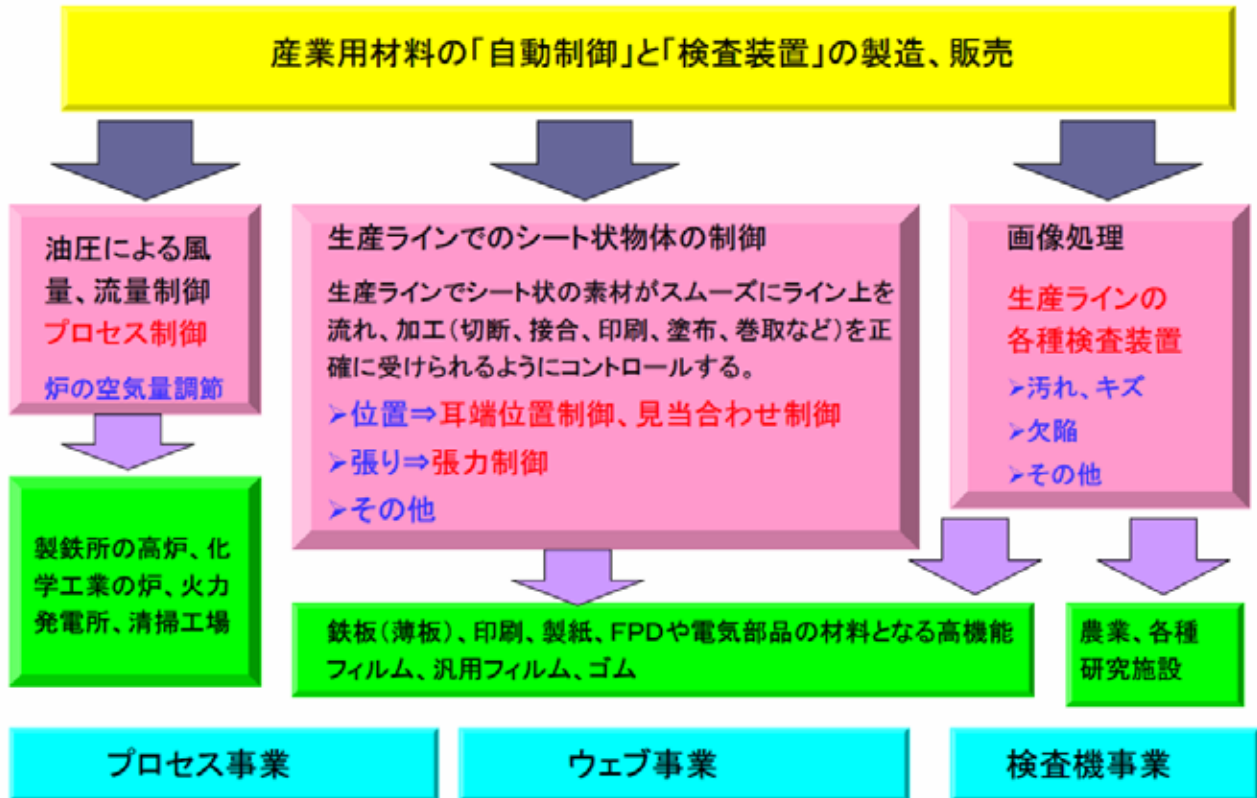
製造現場において、薄鋼板、紙、フィルム等の材料は帯状の形で用いられるが、これらが製造ライン上を正しく運ばれるように制御する装置を製造しています。
そのために、独自の「測る、解く、制する」技術を追求しています。



実際の技術的な強みとしてあげられるのが、センサとアクチュエータで、薄鋼板や紙などの帯状の製品をコントロールする自動制御装置の“目”と“手足”にあたる部分です。

個性的な製品で市場を創造しトップシェア企業

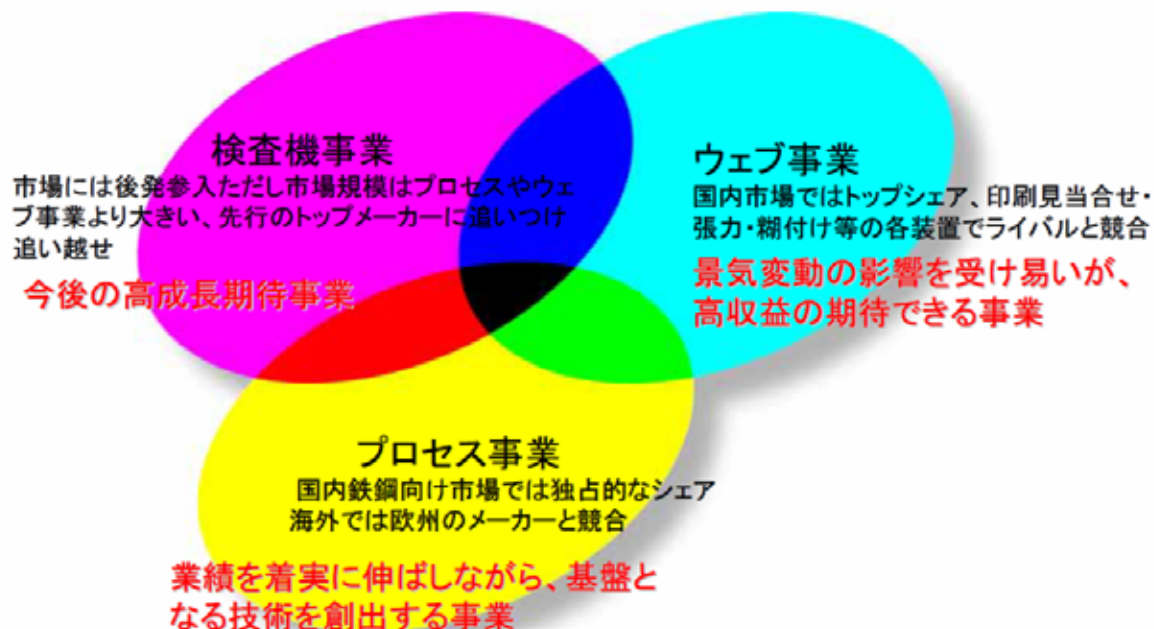
ニレコの製品の開発当初は国内に類似のものがなく、産業界の潜在的な需要を掘り起こし、現在に至るまでトップ企業として新たな市場を開拓しています。



主な事業と製品類

事業	製品類	主なユーザー
プロセス事業	プロセス制御装置 耳端位置制御装置(EPC) 自動識別印字装置(マーカ) 渦流式溶鋼レベル計 板幅計	鉄鋼、非鉄金属 電力、ガス 化学 公共機関
ウェブ事業	耳端位置制御装置(EPC) 張力制御装置 見当合わせ、切断制御装置 糊付け装置 印刷検査装置(BCON)	印刷 製紙、紙加工 フィルム、繊維、化学 機械
検査機事業	無地検査装置(MujiKen) 電極シート検査装置(e-FlexEye) 画像処理解析装置(ルーゼックス) 青果物外観検査装置 近赤外分析装置(NIRS) 分光式計測装置	フィルム、化学 包装材 農業 石油、製薬、食品 化学、精密

プロセス事業は、国内ではパイオニアとしての当初から市場を独占してきました。鉄鋼メーカーからの高度な要求に応えるために開発した技術的達成は、ニレコの他の事業に応用され新製品や新事業創出の基盤となりました。ウェブ事業は、印刷・製紙・フィルム・繊維・ゴム等様々な対象に向けて広く展開しています。シート状物体の制御という単一市場を特定することはできませんが、個々の市場のトータルを見るとニレコは、個々にはライバルと競いながらも、トップシェアの地位にいます。検査機事業の市場は他の事業に比べて最大規模となりますが、後発参入のため市場では第3位の位置にあって競争に打ち勝つ努力を続けています。



株式会社ニレコ

担当：片山

TEL :042-642-3111

E-mail: yasuo.katayama@nireco.co.jp

Facebook: <http://facebook.com/yasuo.katayama>

住所 : 〒192-0032

東京都八王子市石川町2951-4

HP: <http://www.nireco.com/>

本資料に掲載されている、ニレコグループ(株式会社ニレコ及び子会社に関する記述の部分は、本資料の作成時において入手可能な情報から得られた当社グループの経営陣の判断に基づいております。

しかし、業績予想の数値は実際の業績と異なるリスクを内包していることにご注意下さい。当社グループは、常に最新の情報提供に努めますが、実際の業績は、業績予想以後に実際に生じる市場動向、経済情勢、消費動向、社内事情等の影響により、当社グループの経営陣が予想した数値と大きく異なる可能性があります。